

## こども分科会について

### 1 設立趣旨

こども…育ちづらさ  
親 …育てづらさ

} 子育てしやすい環境=誰もが住みやすいまちづくり

子育て…相談(核となる場)と地域づくり(つながりをつくる)が必要

### 2 分科会構成

非掲載

### 3 これまでの取り組み<令和5年7月から令和6年8月まで>

第3期久留米市障害者計画である「支援が必要なこどもの発達支援と保育・教育の充実」に基づき、こども分科会では下記の取り組みを実施する。

#### (1) 目標

- ① 学齢期～思春期のこどもたち（不登校、ひきこもりを含む）の課題の整理、補完できる資源や仕組みの検討。
  - ア 分科会でのグループワークを通じた意見の集約。
  - イ 他の分科会や団体の活動とのコラボも検討しながら、こどもの声を聴く機会や、こどものこれからを考える機会をつくる。
  - ウ 広く参加を呼び掛けながら、課題の整理を行う。
  - エ 補完できる資源や仕組みの検討。
- ② りんごマップ掲載団体や学齢期のこどもたちに関わる団体や不登校引きこもりの関係機関等が交わる定期的な集まりの場の開催。
 

つながりの活性化、相互連携や地域づくり支援。

基幹相談支援センターの公式 LINE を活用した情報発信を行い、取り組みを見える化していく。

  - ア こどもまんぷく「出会い・知り合い・つながり合おう」の定期開催
  - イ それぞれの団体の持つ社会資源情報や取り組み、こどものつながりなど共有し合う機会をつくる。
  - ウ 情報発信の検討、取り組みの見える化
  - エ 基幹研修会の開催

#### (2) 取り組み内容

- ・意見交換会：こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』及びグループワークの開催（年3回）
- ・基幹研修会の開催（年1回）

令和 5 年度

回数	年月日	内 容
第 1 回	R5.7.4	意見交換会：こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』 ・久留米市学校教育課 S S W ・未来学舎 ・久留米大学地域連携センター ・久留米大学大学院附属心理教育相談センター 参加者：52名（行政、民間、個人）
第 2 回	R5.10.2	意見交換会：こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』 ・ダンデライオン不登校ひきこもりを考える親の会 ・パルキッズくるめ ・久留米市子ども子育てサポートセンター 参加者：46名（行政、民間、個人）
第 3 回	R5.11.30	意見交換会：こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』 ・のぞえ総合心療病院) ・福岡県ひきこもり地域支援センター筑後サテライトオフィス ・久留米市手をつなぐ育成会 参加者：39名（行政、民間、個人）
第 4 回	R6.2.17 14:00～ 17:00	基幹研修会「不登校フォーラム」～さあみんなで考えよう～ 場所：久留米大学（つながるめ） 参加者：111名（保護者、当事者、団体等）

令和 6 年度

回数	年月日	内 容
第 1 回	R6.7.25 10:00～ 12:00	意見交換会：こどもまんぷく『出会い・知り合い・つながり合おう～くるめの町の活動団体～』 ・久留米市障害者基幹相談支援センター ・幼児教育研究所 ・休眠預金等活動事業 参加者：57名（行政、民間、個人）

※各会には、放課後等デイサービス、児童発達支援、相談支援事業所のスタッフの参加あり。

(3) 成果

・ 定期的な意見交換会：こどもまんぷくの開催

「出会い・知り合い・つながり合おう」をテーマに、毎回、専門領域を超えて50名ほどが参加。各団体からの活動内容の報告+GWの実施。参加者のアンケートから「顔の見える関係を築くことができた」「インフォーマルな団体と知り合う機会を得られてよかった」等の意見あり。

今年度は、久留米市障害児等療育支援事業を実施しているのぞえ総合心療病院との関わりがスタートし、今後は聖ルチア病院とも連携が可能な状況となっており、医療との連携の強化を図っていきたい。

・ 関わる団体のマップ「まんぷくマップ」を新たに作成

基幹相談支援センターの公式 LINE にて情報発信し、各団体の詳細をホームページで紹介している。

・ 2月の基幹研修とのコラボで『不登校フォーラム』を開催

令和5年4月からの取り組みのまとめとして、障害のあるこどもや生きづらさを抱える子ども達が安心して暮らせる基盤をつくるために、不登校の子ども達（障害の有無に関わらず）に関わる大人（保護者や教育関係者等）が、不登校の子ども達の理解を深める機会とした。

来場者は、100人を超え関心の高さが伺えた。保護者、教育関係者、福祉関係者、医療関係者、行政関係者、市民活動団体、地域の方、子どもたちと様々な立場の方が共に集い、つながる研修になるよう、講話だけでなく出会いの場を設けた。

参加者の中には、子どもに障害があるという認識は少ないけれど、わが子のことで悩み、親も子どもも相談できる場所を求めている方々やもしかしたらわが子には障害があるのかもしれない、通院したほうが良いのかもしれない、でも誰にどう聞いたらいいのかわからないという気持ちを抱えた保護者の方々がたくさんいることも明らかとなった。

・ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会のこども部会立ち上げに協力

インフォーマルな活動団体のつながりづくりを行う一方で、放課後等デイサービスや児童発達支援事業所の質の確保、つながりの強化に向けて久留米市と協議した結果、事業者協議会の部会としてこども部会を立ち上げることとなった。

## 4 課題

① 課題の整理とまとめ

障害のあるこどもや生きづらさを抱えたこどもたち（不登校、ひきこもりを含む）の地域生活を送るうえで抱える困難さや課題についての整理、課題解決に向けた補完できる資源や（人材育成等も含めた）仕組みの検討までには至らなかった。

② 相談体制

障害の理解につながるための入口（相談先）がわからないというご家族の声がある。情報発信する側と情報を得たい家族のマッチングができておらず、基幹相談支援センターの存在を知らない人も多い。

③ 障害児サービス事業所との連携

障害福祉サービス事業所の質の確保、つながりの強化のためには、事業者協議会（こども部会）との連携を強化していく必要がある。

## 5 事業計画 <令和6年8月以降の取り組み>

第4期久留米市障害者計画の基本目標である「支援が必要なこどもの発達支援と保育・教育の充実」に基づき、こども分科会では下記の取り組みを実施する。

## (1) 目標

### ①地域づくり・ネットワーク

『意見交換会：こどもまんぷく』の継続開催をすることで、こどもたちに関わる関係者とのネットワークを生かして、障害や生きづらさを抱えた子ども達の多岐にわたる支援ニーズに対する対応策を考える機会とする。また、各団体間のつながりの活性化やフォーマルとインフォーマルな社会資源を繋ぎ合わせる場としても活用する。まんぷくで得た社会資源の見える化を図り他機関への周知徹底にも努めたい。

### ②切れ目ない相談支援体制

障害の理解につながるための入口（相談先）が分からないというご家族や障害や発達面での支援が必要なこどもたちが、ライフステージに応じて切れ目なく相談できて必要なところへ繋げていける体制づくりを考える。

### ③支援者の質の向上・障害の理解啓発

障害福祉サービス事業所の質の確保、つながりの強化のために、事業者協議会（こども部会）との連携を強化していく。

また、保育・教育の充実のために、障害特性の理解に関する情報を提供し、障がいの知識の普及と理解促進に取り組む。更に、各団体が行う取り組みや研修案内を集約し発信するなど情報発信の方法を探る。

## (2) 取り組み内容

※開催方法や頻度は、状況によりその都度決定していく。

### ① について：「こどもまんぷく」を年3回開催。

ア 子どもに関わる団体の実践等から地域課題の把握や情報収集を行い、各団体の強みを活かして補完できることを模索していく。

イ 令和5年度に参加した団体以外にも新規で呼びかけ、フォーマルな相談先に加え、インフォーマルな活動団体等に参加を呼びかけ、各団体が連携協力しやすいように顔のみえる関係づくりを図る。

ウ 参加者が、各部局や各団体の取り組みを知り、子どもたちのライフステージにあわせた相談場所や居場所を紹介できるように、「まんぷくマップ」をさらに拡大していく。

また、基幹相談支援センターの公式 LINE を活用し、インフォーマルな資源を含めた社会資源の見える化を図っていく。

### ② について

ア こどもまんぷくやこどもに関する相談窓口に携わる関係機関同士が集まる機会を活用し、各相談窓口の情報を共有・整理・役割分担することで、ライフステージに応じて切れ目なく相談できる体制づくりについて考えていく。

### ③ について

ア 事業所協議会のこども部会の進捗状況を把握し、事業所の質の向上に向けた取り組み等、こども分科会として協力できる部分を協

議していく。

- イ 基幹相談支援センターのホームページおよび公式LINEを活用し、支援が必要な子どもについての研修会案内や情報の提供を行い、本人やご家族、事業所の職員や学校の教員が研修や地域活動に積極的に参加しやすい方法を探っていく。

### (3) 期待される成果

- ・こどもまんぶくを定期開催し、こどもに関わる関係者が集まる機会をつくり、ネットワークの強化を図ると共に各団体の活動がより活性化することが期待できる。
- ・子どもに関わる関係機関や活動団体からの情報収集や地域課題の集約ができ、その課題に対して、それぞれにできることや工夫できることを持ち寄りながら検討していくことで、久留米市内に点在する活動団体が、相談先としても一躍を担うことが期待できる。  
それが、子どもたちが安心して暮らし続けられるまちづくりの醸成をはかることにもつながっていく。
- ・こどもの相談の入り口にいる機関同士が繋がることで、相談につながりにくい人が必要な情報や機関につながりやすくなり、切れ目のない相談支援体制につながっていくことが期待できる。
- ・各分野の取り組みや社会資源、障害に関する情報や研修、イベント案内等を基幹相談支援センターのホームページや公式LINEに集約し発信していくことで、久留米市の情報が見える化され、他機関協働のきっかけづくりにも繋がることを期待できる。